

ONLY

オンリーワン企業

》株式会社 HOKUTO

開発から最終製品まで、メンテナンスも見越したモノ造り
アイデア企業の頼もしいパートナー



いしむら りゅうじ
代表取締役社長 石村 龍二

株式会社 HOKUTO

〒013-0053
横手市外目字大谷地14番地1 1F
TEL:0182-23-6102
FAX:0182-23-6103
<https://hokuto-jpn.com/>



HP

アイデアを具現化する、プロセスごと提供する

電子機器の製造受託を主な事業としている株式会社 HOKUTO。横浜事業所で設計し、横手市にある本社兼工場が量産を担当する。代表取締役社長を務める石村龍二さんが大手電機メーカーの下請けを行う製造業での経験を活かし、2012年に創業した。

国内には部品製造のみを行う企業は多数あるが、同社のように最終製品まで一貫して作り上げられる企業は数少ない。この稀有な強みがあるからこそ、アイデアを持っていても、製造を大手企業に断られてしまう「製造難民」となりがちなスタートアップやベンチャー企業の救世主となっている。

手掛けるジャンルは多岐にわたり、これまで病院向けの遠隔操作型IH調理器から、水道管内の老朽化を調べる点検ロボットまで、あらゆる異業種の斬新なアイデアを具現化してきた。最近では中央大学発ベンチャー企業の依頼で、配管のメンテナンスを行うミミズ型ロボットの設計・製造を受託。半導体メーカーからも引き合いがある。

新事業への挑戦と、モノ造りへのこだわり

昨年米沢市に山形工場を設置し、紙おしぼりの製造に特化した工場として新たな事業に乗り出した。数年前「紙おしぼりを温冷する装置を開発してほしい」という依頼で、高級紙おしぼりメーカーとの縁ができたことがきっかけだ。温冷装置だけでなく、自動包装機の開発も行った同社は「将来的には生産ラインを開発してほしい」という顧客からの期待もあり、自社で製造を行うことを決意したという。顧客の課題を「自分ごと」として捉え、より良い製造ライン開発への知見を蓄積する狙いもある。経営面では、受注の波が激しい工業製品だけでなく、継続的な需要が見込める紙おしぼりの製造という「2本目の柱」を得たことになる。

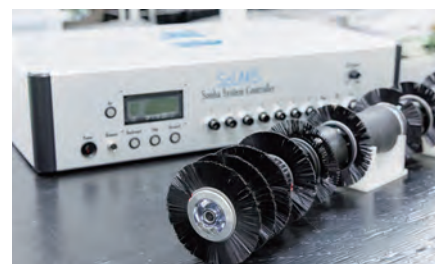
石村社長は「部品製造だけを作っても消費者にとって本当に必要なものが作れたのかはわからない。」と、最終製品まで一貫通貫で作ることにこだわり続ける。エンドユーザーに近い場所で社会に役立つ付加価値を創り出す。そのポリシーが同社の未来を支えている。



柔軟に製造ラインを組むことができるセル方式を採用された工場内。



秋田工場では現在17名の従業員が勤務。



人工筋肉を活用し、配管の点検を行うことができるメンテナンスロボット。